

# GSS（グリーン・サポート・スタッフ）の取組について

置賜森林管理署 業務グループ一般職員 小林明仁

## 1. はじめに

近年、森林が持つ国土の保全や水源の涵養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全等といった多面的機能について期待が高まっている。しかし、入林者の増加や登山利用の集中化により、植生荒廃等が懸念される山岳が顕著に見られるようになってきている。このことに対し林野庁では、平成 18 年度より二酸化炭素吸収源として算出される天然生林の確保に資するよう、森林保護員（愛称：グリーン・サポート・スタッフ、以下GSSという）を活用したきめ細かな保全管理対策を実施し、人為による植生荒廃等の防止を図ることを目的とした制度を導入している。

置賜森林管理署ではその制度を活用し、平成 19 年度からGSSを管内 2 地域に導入している。主な活動内容としては、植生の荒廃状況の把握や入林者への普及啓発に加え、植生保護や危険防止の観点から、誘導ロープの設置、簡易な登山道の補修等も行っている。しかし、近年では勤務時間等の関係により稜線部付近の巡視が行えていないといった状況が発生している。

本テーマは、当署管内における平成 19 年度から平成 26 年度までのGSSの取組を振り返り、問題点の把握とその対策並びにGSSの巡視効果について検討することを目的としている。

## 2. 調査地概要

置賜森林管理署は山形県西置賜郡小国町に位置し、管内は置賜地方 3 市 5 町にまたがっており、土地面積の約 3 割、森林面積の約 4 割を国有林野が占めている。管内には、ブナ林等の天然林が多く、国有林野の約 3 分の 1 が保護林に設定されている。その内、森林生態系保護地域として「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、「吾妻山周辺森林生態系保護地域」及び「朝日山地森林生態系保護」の 3 地域が設定されている。当署では「飯豊山周辺森林生態系保護地域」と「吾妻山周辺森林生態系保護地域」を巡視しており、この 2 地域を調査地とした。



置賜署における森林生態系保護地域の内訳 (ha)

|       | 保存地区  | 保全利用地区 | 合計     |
|-------|-------|--------|--------|
| 飯豊山周辺 | 4,671 | 6,431  | 11,102 |
| 吾妻山周辺 | 1,604 | 2,286  | 3,890  |
| 朝日山地  | 2,326 | 7,560  | 9,886  |

### 3. 調査方法

平成19年度から平成26年度までのGSSの活動を綴った業務日誌とGSSからの聴き取りを基に集計を行った。その結果から、GSSが発見した巡視地域における異常等をグラフ化し、その傾向を分析した。

なお、傾向を定量的に分析するため業務日誌を活用したが、業務日誌は自由記載であるため、おおよその傾向を把握することに止めた。

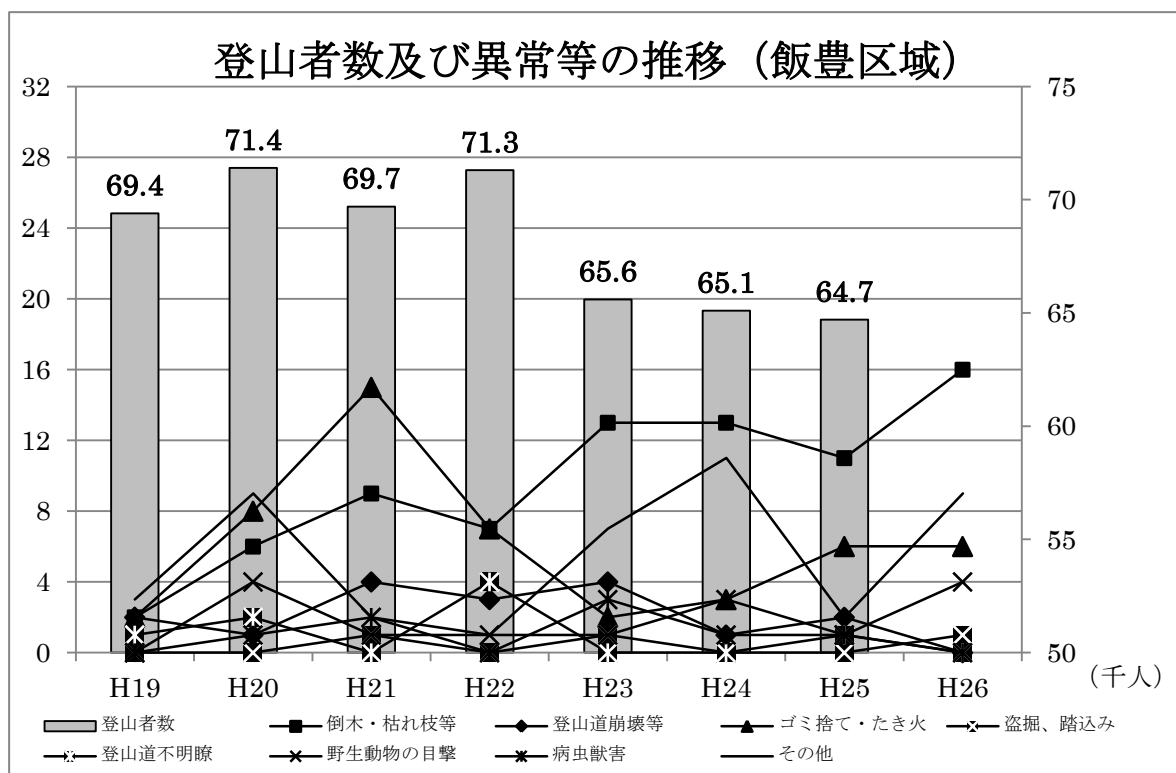
### 4. 結果

#### (1) 飯豊山周辺森林生態系保護地域

飯豊山周辺森林生態系保護地域（以下飯豊地域と呼称する）においては、倒木・枯れ枝等とサルやカモシカ等の野生動物の報告が増加傾向であり、入山者や高山植物への被害が懸念される。実際にカモシカによるヒメサユリの食害が報告されており、今後の動向を注視していく必要がある。

また、東日本大震災以降、入山者数は若干の減少傾向であるものの、ゴミ捨てやたき火の跡などの発見が顕著となっている。

その他、聴き取りの結果からは、登山道の刈払い時に高山植物や樹木が必要以上に刈払われており、刈払いの改善を要請しているが聞き入れてくれないといった現状であることが確認された。

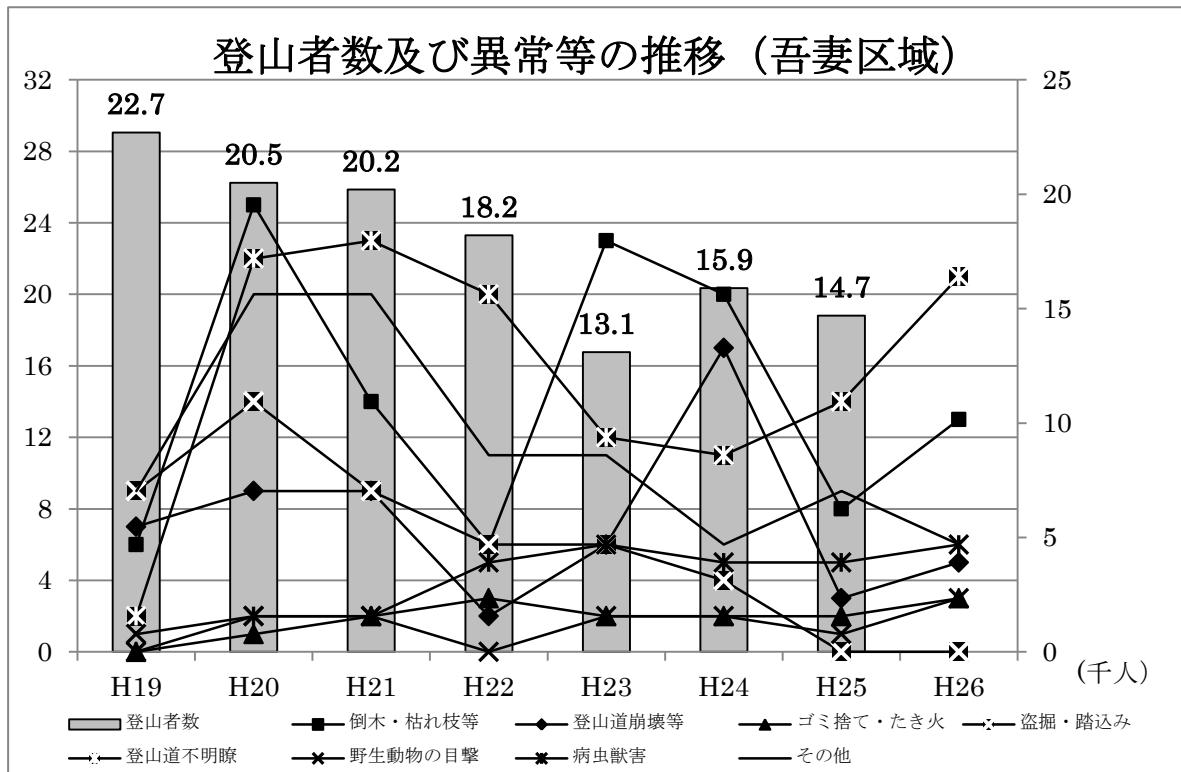


#### (2) 吾妻山周辺森林生態系保護地域

吾妻山周辺森林生態系保護地域（以下吾妻地域と呼称する）においては、登山道の藪化や標識の損失等により登山道不明瞭箇所やクマ等による樹木や標識類等への病虫獣害が増加傾向であることが確認された。倒木・枯れ枝等は、年ごとに大きな差が見られるものの、全年を通じて比較的多い傾向であった。

一方で、盗掘や登山道外の踏込みの跡は減少してきていることが判明した。

また、吾妻地域ではロープウェイとリフトを乗り継ぐだけで比較的簡単に上部に行くことができるといった背景から、飯豊地域と比較して家族連れや学生が多く見られているといった報告があった。そのため、軽装で準備不足な入山者が多く、それに加えてマナーを知らない入山者も多数見られた。



### (3) GSSの取組の成果

吾妻地域において、盗掘や踏込みの減少が顕著に表れている。これはマナーを知らない人に対し、誘導ロープや看板等の設置が効果を発揮したものと考えられる。また、登山道の整備によって登山道上の障害物等を避ける必要がなくなったため、踏込みが減少したと推測される。

その他に、入山者が登山道外へ出て行く人を注意する、踏込みや盗掘の発見の報告とそれの対策を提言してくれる等といったことが報告されている。このことから、入山者のマナーと自然保護等に対する意識が向上していると見られ、地道な普及啓発活動に効果があったと考えられる。

## 5. 課題点

### (1) 飯豊地域

課題点としては、上記で述べたように倒木や枯れ枝の落下等が増加していることが挙げられる。落下による入山者や植生への直接的な被害に加え、登山道の障害物となりそれを迂回する入山者が植生に踏込むといった二次的な被害も懸念される。

また、入山者のマナーや自然保護に対する意識の向上が見られる一方で、釣り人や山菜・きのこ採りによる山麓部や溪流部でのゴミ捨てやたき火の跡が顕著となっている。景観の悪化や野生動物への悪影響が推測されるため、この対策を考える必要がある。

登山道の刈払いの際に高山植物も刈払われていることは、希少動植物保護の観点から重要な課題であり、早急な対策を検討する必要がある。

さらに、近年においては勤務形態の関係により稜線部付近の巡視が満足に行われていない状況であり、GSSの主目的の一つである植生の荒廃状況の把握が行えていないことなどが課題となっている。



たき火の跡



倒木と枯れ枝



拾ったゴミ

## (2) 吾妻地域

上記で述べたように上部への移動が比較的容易であるため、軽装や地図の不携帯といった準備不足の入山者が見られる。GSSの取組により、入山者のマナー等の向上が図られているが依然としてマナー不足の入山者が報告されている。これらのことは動植物への悪影響だけでなく、山岳事故等の入山者への安全性の観点からも重大な課題であると考えられる。

また、標識類や木歩道の老朽化と損失、登山道の荒廃が多く確認されている。これらも上記のように、自然保護と入山者の安全性の観点から早急な対策を検討する必要がある。



軽装での入山



標識の破損



登山道の藪化

## 6. 今後の対策について

このような状況を踏まえ、効果のあった入山者への普及啓発や誘導ロープ等の設置、登山道の整備を強化、継続し、特に登山者以外の釣り人や山菜・きのこ採りに対しての普及啓発を強化していく。

また、異常報告の集計データからGSSの巡視時期や区域の見直しを検討し、より効果的な巡視が行えるようにする。現在の勤務形態等の問題からGSSだけでは困難な課題に対して、当署で新たな取組を検討する。

登山道の管理主体に対して刈払いの実施、改善や標識類等の早急な修繕、設置を要請していく。

以上のような対策を検討、実施していくことが考えられる。

## 7. まとめ

当署は、平成19年度からのGSSの導入により、管内2地域における植生の荒廃状況の把握と入山者への普及啓発を行ってきた。GSSの活動には、誘導ロープの設置等による踏込みの抑制、普及啓発による入山者のマナーや自然保護への意識の向上といった成果が見られた。

しかしながら、様々な課題が残されている状況となっている。

これらの課題に対し、異常が多発している時期、箇所から巡視の時期や日数並びに巡視区域の見直しを検討し、GSSの活動をより効果的なものとし対応していくこととする。また、勤務形態の制限による稜線部の不十分な巡視、登山道等の大規模な修繕といったGSSだけでは困難な課題もあり、これらの課題に対し、各関係機関との連携を強化するとともに、合同パトロール等の新たな取組についても検討していく予定である。

## 8. 謝辞

最後に、この課題に取り組むにあたって、日頃の業務活動と調査に協力して下さったGSSの方々と、発表原稿作成にあたって様々な助言を賜って下さった置賜森林管理署長をはじめとする職員一同に心より感謝いたします。

## 引用元

山形県ホームページ 山形県観光者数調査（平成25年度調査結果を掲載）「主たる観光地別観光者数」

<http://www.pref.yamagata.jp/sangyo/kanko/plan/7110011kankoshasuchosa.html>

米沢市役所 米沢市の統計 2014年版

<http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/4576.htm>